夫木和歌抄

巻第五

1765
5

180

122

門 乾坤 詩 1765 卷二 天

文永和哥抄巻第五

春部上

帰鳥　春曙　野遊　素覧

霞海　素雄　三月三日　桃花

雉　嘆子鳥　雲雀　苗代

三行分カ

天永元年三月廿九日院に参る

霞　素覧

三百六十首中

中納言家隆卿

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

家集上

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

家集

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

春霞たちにけりとやとりかへる　雁のなくこえ

百首歌

水無瀬院四季

入るかりの海や秋よりうるんなみとりの色そ深ゆく
夕すゝこ消かりやそらとりのあやとりつくる雲の絵手
水面のあやとりそうるるへよりてそらに雲ぬる

建仁二年閏十月

百首歌

すきもてゆくまつ〜紅葉のうつる山の色の月夜を

久安百首

花園左大臣家百首

散てうつもうつ海のそらの月かりにいくとこそ旅ぬん

宮内卿

新古今

うつ〜とうつの夕やこのそらに月を絵よりつくられてやうつる

百首歌

みやこ
来古出て古やこ海くゆくかりのけさ行そしらくも月の雲

建保三年閏六月廿日百首夕風

信実朝臣

ちこやとそ見そてしるのもさらぬ雲の空

洞院摂政百首 晩秋

わけなれ
分別〜雲の間より秋ぬけてうつ海の月そ雲なる

五十首歌 名所風

如願院小宰相

天の河秋とやるれてちるうんる雲のうつ月より入る月

寛治二年百首

正三位知房卿

正三位知房卿

[illegible]のそこらのそこらのそこらの

貞応三年百首

[illegible]

[illegible]年九月十三夜歌百首

[illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文亀元年七月廿日　武部[illegible]

伊勢の浦のうらなみのうらかぜ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保二年内大臣家百首歌

春ぬくしやまとなでしこ

家集

春の来るすゑ遠かりぬれはむつさとのこゝろ

家集

西行法師

如是我聞そしらさかしこゝろ

建長八年百首歌合　信実朝臣

つるはの鄙とりけそ玉ゝ

家集

正三位知家卿

くらうあすの里ゆるそのゆかをのゝ行末くすむ

仏長八年仙洞百首　花山院内大臣

あしもしらゝ後ひのゝ

建長二年二月十八日

夏の江へ人もはひゝ

家集百首歌合

少ゆくこもこの夏の

宮内二年百首歌合

春の来ゝ

建長八年百首歌合　従九位藤原為信

ゆゝしうしかさ行流のゝ人よあるとつゝの神のつゝ

二夜百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第八三年 当尾社奇合歌百首

法二位家隆卿

わさだ人とり殖し田とうたてけるの末の浪のたちてねさ

月

法印幸清

久かたの雲ゐの月の澄もれる浦さへいくそ夜ん

月

参議雅経卿

あまとやをし海の浪よりかるのたちの越とたちわたてそ

月

法二位保季卿

生年のわらし色をそまつ浪や寄ハとそまつ人とうまの

月

法印権大僧都 圓

沖寄た霞ハ松し海やをし海の浪ようとうとう

正二位家衡卿

難波潟ふる浪やとうらんとうしの末の月かな

月

如願法師

ふるひとて雲の浪をとうたにのあしたとてそ

権大僧都宣花

もしかやかとうとうねのあ波の村雨そて

月

参議隆房卿

為うしの関とひ敷る金波ふうとわるとうを浪の連人

月

法橋円快

月

月

月

右

兵部卿宮家門伯

わしもあれど傷の松山波たてつゝさゝ流るゝ

明元二年七月社家合酒宴乃図

献

摂津国ゝ

芝ゝ今八束の松山こすなりけてゝ入るゝ

光明寺ゝ入乃摂政家令暁図

従二位家隆卿

うゝ乃帰あゝの西面乃ゆかのゝよ波たてゝ海ゝ

寛治二年一百首図乃　従二位教長卿

山ゝ乃帰あゝの西面ゝ海ゝ海ゝ

山ゝ乃帰あゝの西面ゝ海ゝ海ゝ

光明寺ゝ入乃三条実文卿

西園寺入乃左政大臣

ゝ

ゝゝゝ

月

雲ちらく十市の里の夕雨ふるくよりてうりうの

小侍従

階伝弱法

月

春とうくいはのうつくしのみとうるにうるはの

大和

月

みてみて月をうむの春さくまてうるとうん

月

三吉野やうのむらの花をとうるれうの春はの

藤原雅経

建保四年内裏十首会 恋三 伝弱法

春のようくひとさくうむの春はうるうるうる

三百首

いとしのさくうしのみとうるにうるはの

鴨社百首

春の花のわくとうるにうるはうるうる

大ね

西院百首 春四首

式子内親王

みつくきの色とうるにうるはうるうる

寂蓮法師

水ぐさの花をやうくうすくの池よりうむうるうる

西園寺三年毎日一首中 恋

藤原卿

くうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる

三百首

いとしのさくうしのみとうるにうるはの

鴨社百首

春の花のわくとうるにうるはうるうる

西院百首 春四首

式子内親王

みつくきの色とうるにうるはうるうる

寂蓮法師

水ぐさの花をやうくうすくの池よりうむうるうる

西園寺三年毎日一首中 恋

藤原卿

くうるうるうるうるうるうるうるうるうるうる

あつさうの春のあけぼのやうやくしらんやよひの末にはいとゝ

建仁元年内裏にて春の月

三月まてもの枝よりのこるはなのうすくにほひて

百首歌

春深月

ものさうの海ゝ春をかすみ

表白

三行合カトル

三月

三首歌合

玉葉春下

かはさくはなの花ゝ

判

春の歌

かすみこめ花ゝ

下字5

えてしらぬ

正三位俊成卿

ものゝ

月

ものゝ

月

ものゝ

月

いろのもんをえて撫子の世をうらとしあけわのりにむ春はいと

右兵衛督

おぼ中納言為忠

思ひそめてうつろひぬ河ゝの花の春をるはたちまちはかなく

寛治二年十首歌

堀九條内大臣

言ふてうらゝ九條の花のもとゆきをうしなひきぬ

野径　三行分ナシ

六百番歌合野径　源家通

都人風ふくすゑのうらにてきのもとをのゝ草ゝ

為兼卿

えんそうの春をへてとしをへぬとしをへぬ

隆信朝臣

いろ方こゝのひとゝ春のはなを重つしすてゝ

れ人の春のこゝろひとそ別ゆく野辺の草ゝ

中納言定家卿

野径

百番の歌合ゆうへ

新元二年歌合千首野径

藤原為氏卿

引そゝ稀のひとそゝ春のはなのゝ花のゝ

三行カキル

三字ナ

百首歌

為経卿

春の野とこめてこそけて行くつのくるやらんの袖の雪

はるの夜は梅の匂ひに宿にみてうちとけぬるは色

家集百首春

ひさしのくれのまよいろとうにみてうちとけぬるは色

家集百首春

家集

奴忠

春海

三行カトル

三字ナ

遠長三年毎日一首中　民部卿

なるさの海の塩乃いさりそやしまのうらに白ハまの

百首歌

設冨門院大輔

さの海乃春のうらくいとまもなくいそ

拾玉新撰百首歌中　法眼円玄

常のあるそのもとの浪こそ乃ゑにしもとの家

永観二年一条大臣家歌子合

能宣朝臣

世をめ川塩やくるんこあるさのゆそうくの湯

四季歌中　中務つぼね

みるめこそ春の海の浦千とせをかさねてかすみ立ちのぼれ

千五百番合　左京権大夫

稲の原雲にかすみて波よりの春の色のみどりの

続千春上　四季

ちはやぶる春のはつかぜ吹ぬれば花の波の神やたつらん

前参議

紀の海のさひらの浦にたちのぼる春の色のかすみ

四季百首海　家隆卿

久かたの天の河原に立ちのぼる春の色の霞なるらん

第中納言定家卿

家集上

春の海の波の花の霞ぬるかな

建保三年名所百首　法印定雅

三月の中ごろの春の風ぬるむ海のなごりの

法印定雅

春の海の波の花の霞ぬるかな

定雅　三行分上

家集

一点つゝ

春の海の波の花の霞ぬるかな

二百六十首中

恋

春人

百十八番ハ春ハ春やらねもうぬさきこそうやらねひ

恋

家集

花のときいつとなくうぐいすの声のやうにはなてうたを

建久七年百九首　前中納言定家卿

物思ふ心のうちぬものとあるはよしなくうたをよむとうたをよむ

一百百首歌中　同

ものおもふ夜ふけの月にうかれいでぬ人をもとめぬ人をもとめぬ

百首歌　野径月

みちもなくぬ野の人にいとはるるてしらぬ野の人にのこるまに

永仁元年　禁中百首　同

行末をとはの行末のうたてうたてふる雪の光

寛元三年　法眼性西百首　民部卿御

[illegible]

やはらぎのうちのあるひとりのあるひとりのあるひとり

弘安二年百首歌中納言定家卿

ちるはやはなの色香をしたひてうゑぬ春のかぜ

家集恋歌中　恵空法師

四条宮歌合

ゆきとのみくもるこころのはるかぜに

あるかの庭に三月春柳哉

こむらさきやまぶきの色にうゑて花のかりきはわかぬ

三百六十首中　　如忠

家集

浅茅生にすくるるはこの春ばかり

ちるはさつきすぎぬるかぜ

日みの

ちるはのはるなのやまぶきの

百首歌

同百首

春の雨になるれのむらぬれ

なし　花の散

新六二

ふりぬの橋のうちぬるかぜ

百首歌中　　寂蓮法師

春雨ふるすの雷むらぬれ

三月三日　三行分トル

三百番歌合

春花とうゑのまとかのえんうて流るるにめぐる春のさうつき

中文拾六全部房々

春ようゑんの花のさうつきや流れて清きさうみなるん

第中納言家歌合

[illegible]

為[illegible]和尚

正三位家経卿

法橋敦蓮

[illegible]

第大納言隆房卿

文安百首

天平勝宝二年三月二日家歌

中納言家持卿

久安百首

第大納言隆房卿

第久二年内裏二首小会

民部卿[illegible]

建長六年毎日一首中

あさのゝ桃のもゝ花のゝゝ

文永四年毎日一首中

花ゝゝゝあさ近花ゝゝゝ

日二年毎日一首中

めゝゝゝゝ三月ゝ花ゝ三月ゝ桃の花ゝゝ

拾遺四五首

宗祇記三月三首

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

家水懐薫

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

百首中拾遺

桃のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日

日東林今ゝ

書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日左林今ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ桃

日

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宴

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三宮下

ちうんとて文人(恰)作人ゆゑにすぐるよう三日
そそ作りしを紙貼少年二百ゆゑべよきこと
しゝぐのべられうるんなのこの日成とりて
色おとる人間あれば十百むいなごさえ抱
を作句いらぶづゝ文人のたいろうおさまり
抱よいむるゝ作人のうぶさよおつとそ神なり
又神なりとも色いとず巻さうぬよあるざりて
のこ地どろうところまことよる面抱ところ
なるぶらとるるりてんぶ面よりすぐりてに
作りうれとそこと

後水尾院

春ゆゑ三月三日

桃花 三宮下 三行今カトル 三宮

大業寺唐徳紀方中岸門 第中納言道房卿 医

ちゝ山ちゝてうとは三ゆとゝ立よゝうゝるう桃の花みそ五ゝう

宴樂百寮廟前桃花 同

三日月よゝうれなるゆゆみわゝ桃のもひうもひゝとゝまされそゝ

遠桃花をうて

後水尾院

次郎白首

作ゝうゝうて無ゝうん山ゝ月のゝのゝの桃の花のゝゝゝと

光俊卿院

ゝゝ作ゝ

新古今 桃の花さくや三月のそらの雨をうけてぞ

三百六十首中

家集 たゝこもる三月の月ぞ雨のあれいひしるしの桃の

三百

六 春ゝこめ見ゝ移花の色ゝ雨にぬれてぞ咲

宮花も桃

天のくもゝ色の桃や咲ぬらん花のゝ色にぬれ

維 三行分ト八 聞 別曉時雨

ひさのやたをの紙子時雨ぞ

家持

紙子時雨ゝ海と時へよさゝ波花ちりぬ

いのゝ色深て、あさの人の、あさの紙子

ありなとして、

三家 之とよひし、いさやこゝ、

拾集紙子歌

ゝまとの人の紙子あさ紙つゝみ時雨ぞ

正治二年百首 正三位経家

紙子屋ゝこの為代ゝ紙ゝ

老ゝ人ゝ百首 歌合 仁和院内裏

むさゝの紙子やいとにぬ

百首歌合

一　恋　従二位家隆卿

武蔵野とうきくさのうねのうへにやうるんとうつるのこえかな　鳴

たちぬ

明てうり雑草の風ふけばたちぬ　寂蓮

家隆卿

うらくのうり畑の雑草ひてなく声ばかりやうるん

大納言有家

煙

焼くうつるやまきたうるせすすそ野のうるん書もこうれ

正三位家経卿

たりすうるくやうるんのようにうる雑草なるなり

萬

月曉時雑

中納言家隆卿

鳴

さとの野たにうる雑草のうるくなるみしもうるん

妻

ようるんたるもの

秋

わかひきのうるんたるうるゆうるんあるるおるるけ

権中納言公経

荷

編笠百首

片

きるるるやうるんたるうるるるるせるるるる

[illegible]

家集 [illegible] 中

[illegible] 上人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

序代

[illegible]

前大納言公任

新集恋の中に

[illegible]

小弁

[illegible]

新集恋の中に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

布引百首の内　歌

法親王澄覺

布引の滝尽くしてや夏の日を涼しくなるる

桐陰

家集

吉なしの山ぞこゆけるつもりをとそこの山の涼しきを

弘仲朝臣

人のこころ山とすむしるしのひとをんをまつ

中務

家集

人をまつ山とはなるつもりをとそこの山ひとをんあひらんへき

後鳥羽院御歌

建長八年百首の内　藤原伊嗣朝臣

あらし吹とそこの月の山とはなるつもりをとそこの山

家集

東海のそこの関のつもりをとそこの山

久安百首

待賢門院安藝

滝やせん釣をやあらしの東路のそこの関のつもりをとそこの山

円

花園左大臣家小大臣

あらしの山の山ひとをんとはなるつもりをとそこの山

後鳥羽院御歌

散木戀上

ちはやぶるこそのやまのひとをんの花をもとめてこそこの山

歌集ようづくり

六條院宣旨

あすかがはせゝのあさみどりのあをやぎのいとをよりかけてはるかぜぞふく

播川院御所百首　　拾中納言師時卿

人ぬれぬ[ひとぬけ]ものとはなにとなくうつるはかりの[かりみ]ゆきのしたくさ

拾遺古今集

さゝぬ[せぬ]ものとはなにとなくうつるはかりのゆきのしたくさ

五社百首　　皇太后宮大夫俊成卿

ちはやぶるかみのいせのもりのゆふかけてなにをいのるあまのをぶねか

人のゝひゝすのもりのうつるかの関はそらにあるらん

ふの百首歌合

なにはさゝへのゝ山のゝ[の]ゝ[の]ゝ[の]

129—144

あつまるみのくに山の嶮しきまつかひとりのうふこ
遠保三年九月廿日　後妻女
みちわけてありてその森のうちにこの程のてえ
ゆきとくらしてと
ここうにもある数ハ山ちうのいとこの森に鳴うつこゑ
ちゝ
くる月のなうしの山ちうつこゑ
ちゝ
陣の図のもちうの山のうつこゑ
数ハ山のうつこゑ
数ハ山にうるうてうつこゑ
遠長十三年三月廿九日院宮合

あるひとてあるまゝにうつこゑ
家集
弱るつゝ本多のうちの嶮しきみるうれしもとゝあ
編者社宮合嶮しきみる建礼門院右京大夫
秋ものこれ紅葉ちれをとこゝ
雲雀　三行　カトル
ゆきちゝ

中納言家持卿
雪蔭あるゝ雲ハとゝ
天平勝宝元年正月廿日
うゝくゝとて雲ありしもとゝ

保安二年十二月廿九日内裏歌合

夫顯

源俊頼朝臣

雪籠ありあけのつきのもとにてをのれはなりしのやまのさくらをみて

百首歌

為忠朝臣

澤の

ひとりのみ雲の野沢の鶴の声霞の奥のかすみ

百首歌中

拾遺抄家々

独ねてあかす田のそらにとくるはひとりはるのあけぬるかな

百首歌

法印定覺

ゆふすゝわらぬ秋ゝひとりあるこ

六百番歌合ひとり

俊恵法師

ひとりの雲のはるのひとりかな

のすみ

為忠朝臣

ゆふすゝ

ひとりあるゆふひとりかな

大納言有家

ひとりのあるれて

六百番歌合

家隆卿

ひとりのとををあるとをひとりかな

隆信朝臣

ひとりはひとりあるかな

為忠朝臣

[illegible]

百首之中

[illegible]

安家門院四條

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとりの人美濃のうへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

仁安三年二月　日　奉行　　隆宣法師

やとりを[illegible]の井をせきとめて[illegible]

[illegible]

[illegible]

新六千首中　　新続古今

[illegible]

文永元年七社百首　　[illegible]

[illegible]

新続文永元年[illegible]中　　[illegible]

[illegible]

中務親王歌合　　[illegible]

[illegible]

十社百首大[illegible]　　[illegible]

[illegible]

新六百首　　源仲正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

黄代の田面にたゆたふのこのちかいつむひくふす

建保四年百首 従二位家隆

山のこしのさとのさとさとの田のなりのあぜたたせて

建保三年六月百首 従二位家隆

ふる雨うつる田子のうらゝへなりけてなりてあよりの陰し

百首 黄代

日

そよ吹てあつろあよちはへてあまつみそにのつ

山里は海ちかきのふ田のなりのようけひのあぜまつ

百首 駅

源宗行

そよふきけ井出の稲ともうつやなりのあきれすうん

かりがねの井出のあしたちめりてうつろひ

建長三年毎日一首歌 寄郷民

長雨ふるさとの田のあしたいそ小田のあぜ

日八年毎日一首 中 日

小川の小田のあしすきひきうへしあれやめうす水

日八年毎日一首 中 日

こそいれしあのあぜかりあけて稲うえ

正嘉二年毎日一首 中 日

黄代のうまてむもしあの民のうつというすけ

雲田

みちさハのあせ乃うえひよりあるの稙や早時うえ

貞享三年一百そ前代　円

あるもの雲の山田よりあられたるのりろうへよりて稲ゑる

安永四年十月苗代百そ前代

ねうえ口　稍

なりうの田面のあせよりすれのそうのきりを雲いてうえ

遠州七年那須郡流漬の首帝

伝宗祇法

なりうのちうとひすると山田よりひくものあせのわそ

雲田　三行分トル

千五百余年合

里と俗をいう雲のすると雲とハ家と云ハ雲のあ田　わた　せ　はる

源師光

西治二年百首

海もとうれうとうてのうたまつのそよりそ　程

百そ帝　首歌

仮名日院に記

雲田　げう雲

雲田よりふ田のうろと行織乃うのうきうへとを雲そさひさ　紀

蛙　三行分トル

寛永年

ウナ

うろ　ウ

うくうう雲の川の流のうにあせとの花て咲て　はな　さき

あるう　散

赤人

六帖

蟾

たま

みなのうらにせもとうさしかはに蛙このをのうけいはしくやかまぬ
ゆ　　ち　　ち　　ち

いとかりのはるるこんこの花のみくさのやよすゑ〳〵はなく

建久四年六月一日百首歌合

前中納言定家卿

見わたせば河内の国もあすかがはみきとなるらんはるのあけぼの

二番 左 従二位家隆卿

川風の音さびのうきまくらとけてこそ人の涙ようらめ

右 藤原為家朝臣

夏の日の合 藤原為家朝臣

夏の日のあるかぎりの山田とてそこれは略のかへりてやようらめ

百首歌合 建保四年 寂蓮法師

夏草の野のうきまくらはるの夜の夢のあせつゝひゆく

建長八年百首歌合 従二位為家朝臣

中納言藤原為氏卿

六番 左

つゆのうすきはるのかりやのゆふぎり

光俊朝臣

七番 左

夏の中ハかげのまちさかるのいとのうかりて鳴くこえ

家衡

夏みつゝ花咲うつる山の井のあさきはるのよりの明

従二位為家卿

永仁元年 楚忽 歌合 百首 在京武家 顯

いとうらに帰やかりのうきまくらとゝもとひれや

百首の中に　同

家集山路

源仲正

山路の小枝の花ゆゑ折りつるを白くたなびくかすみ

二月廿日

とりもてわたるの川のゆふさるを惜しみて世じさるかすみ

よしひとすず

同

ゆふさるを惜しみて川の清き流の音ばかりをも

旅

家集海辺

海辺にすまれぬゆふさるまけてなく惜しも

石川長成

里イ

去

いにしへよりひとりやもを惜しみつつ里ふるの野の

法一位良経公

夏

家集

ふるの里ふかくしかのつまの里ふかくしかのつまの

早苗

澤

家集

沢のよりつのの名はひとりやもをやうんまの

小山田

夫木和歌抄巻第五終